

びばい社協広報紙

ぼぶら

2011(平成23)年
11月1日
(第2版)
第45号

東日本大震災

被災地ではいま・・・生活復興に全力!

岩手県宮古市・福島県新地町で焼き鳥ボランティア

10月8日(土)～9日(日)の2日間、市民3名、社協職員13名の計16名がマイクロバスに美唄産のカボチャ(140個)や玉ねぎ、米と焼き鳥600本、焼き鳥用資材などを積込んで苫小牧港からフェリーで八戸港に入り、宮古市、新地町で復興支援活動し、仙台港から苫小牧港経由で戻ってきました。全行程約1700キロメートルの活動の一部をご紹介します。



写真 説明する葛事務局長と渡辺課長

宮古市 8日は八戸市から南下し、宮古市の田老地区辺りから仮設住宅が目立つようになって大震災の被災地であることを実感させられました。

宮古市総合福祉センターで市社協の葛事務局長へ支援金(75,000円)を渡し、復興経過や現状などの説明を受けました。発生以来、9月5日までに全国から16,181名(延)の災害ボランティアがガレキ撤去や避難所支援に当たり、現在も市生活復興支援センターのスタッフとしてボランティアが仮設住宅などでの生活復興の支援を担当していました。現在被災者は市内62か所(1020世帯)の仮設住宅で生活しているが、長期化する中仮設住宅でのコミュニティづくりが課題であり、その解決方策としてイベントや交流会の開催、情報提供などを行っている葛事務局長は話していました。

宮古市をあとにして東北自動車道を一気に南下し、福島県に入りました。



写真 焼き鳥を食べる新林仮設住宅の皆さん

新地町 9日は晴天に恵まれて相馬市経由で新地町に入りました。市街地は宮古市同様ガレキは処理されていましたが、海岸沿いにはまだ半壊の建物が散見され、発生直後テレビなどで映し出されていた新地駅や跨線橋などは片づけられ、線路も取り外され積上げられていました。震災前は役場前から駅前まで続いていたという商店や民宿などは全く見当たらず所々に土台だけ残されていました。

65世帯ほどの新林仮設住宅で寺島町内会長や小泉ボランティアセンター長に出迎えられ早速テント設営、ご飯炊き、カボチャや玉ねぎの袋詰めや焼き鳥の準備に入りました。午前に行ったレクリエーションには子供からお年寄り約30名の住民の方が集まり「焼き鳥音頭」や「南京玉すだれ」などで楽しんでいただきました。昼食時には40名以上の方が集まりその場で焼いた焼き鳥と美唄産おぼろづきのおにぎりを食べながら住民の方とメンバーが交流し、被災後の様子や現在の心配事などの話をお聞きました。最後は一緒に相馬盆踊りを踊り、皆さんにカボチャや玉ねぎを渡して別れを惜しみました。支援金(75,000円)は小泉センター長へ渡しました。



写真左 ボランティアから教えられて紙飛行づくりに興じる子供たち



写真右 輪になって相馬盆踊りを踊る新地の皆さんとメンバー

今回の支援は、光珠内の渡辺正美さんが「被災地にカボチャを届けたい」との申し出がきっかけでした。4～6月に職員派遣した宮古市と新地町に「繋がりを大切にしたい」という私たちの思いを受け入れていただき、また、多くの市民・関係者のご支援をいただき実現しました。被災地は一見何事もなかったような様相を呈しておりましたが、仮設住宅で暮らす皆さんの多くは仕事や住まいなど生活基盤が不安定な中で不安な日々を送っていました。しかし、短時間でしたがレクリエーションを一緒に楽しみ、焼き鳥を食べながらの交流をおして皆さんの笑顔に接し、逆に私たちは元気をもらってきました。

私たちの支援はささやかでしたが、災害の恐ろしさそれに立ち向かう東北びとの力強さを感じてきました。これから先も生活復興には長い時間を要すると思いますが、今後、私たちにできることは、決して大震災の事実を風化させないこととささやかでもできる範囲の支援を持続させることがだと感じて帰ってきました。

ぼぶらは北海道共同基金会の助成を受けて発行しています

エピソード(宮古市)

千葉智弘さん(写真右)は災害支援から生活復興支援の今日までボランティアとして連日ボランティアセンターに詰めています。千葉さんは自営業で自らも被災しましたが、現在も生活復興支援チームのリーダーとして活動を続けています。ボランティアの中には福岡から83台の車を乗り継ぎ(ヒッチハイク)来た方もおります。



写真展開催

11月上旬から総合福祉センターで今回の支援活動の写真と経過をパネルで展示します。是非ご覧ください。
(詳しくは62-0770へ)

エピソード(新地町)

仮設にお住まいの菅野さんご夫妻(写真左上)のご主人は発生後の様子やその後の心情などを川柳に詠み集会場の壁一面(写真左下)に貼ってありました。『避難船戻りて家も妻もなし』風の音又も地震と飛び起きて』奥さんは集会場で準備をしている私たちに被災直後から今日までの様々な様子を話してくださいました。また、レクでは先頭に立って楽しんでくれました。



東日本大震災復興支援
創立60周年記念
社会福祉大会

地域福祉推進の担い手として邁進を誓う!

—佐々木主浩氏のサイン会に子供たち約60名集まる—



8月27日(土)にホテルスエヒロで創立60周年記念社会福祉大会を開催し、式典、トークショーなどに市民600名近くが参加しました。式典には高橋幹夫市長、内馬場克康市議会議員はじめ約160名の市民が参加し、式辞で高橋将会長が「市民に分かりやすく、親しまれ、頼りにされる社協として地域福祉推進の担い手として邁進します」と述べました。表彰に続き高橋市長などから祝辞をいただきました。

市民お待ちかねの佐々木主浩氏などのトークショーには野球ファンの子供から大人までの約300名が集まり、佐々木氏や元ヤクルトスワローズ広澤克実氏などの軽妙なトークに会場が終わりまで沸いていました。

トークショー終了後のサイン会に約60名の子どもが佐々木氏と広澤氏から色紙やバットなどにサインをもらいニコニコ顔で家路についていました。



写真 サインする佐々木氏

創立60周年記念社会福祉大会・東日本大震災復興支援に協賛していただいた企業・事業所
ご協力ありがとうございました

- 空知商工信用組合・美唄石油株式会社・美唄ガス株式会社・美唄市農業協同組合・郵便事業株式会社美唄支店・株式会社ミウラ商会・北海道銀行美唄支店・有限会社山本靖商店・(株)松岡自動車・株式会社いわせき美唄営業所・株式会社日新工業・空知信用金庫美唄支店・(株)シャープドキュメント 21 ヨシダ・株式会社オフィス青柳・パシフィックベンディング北海道・北の花工房大村花き園・株式会社和光石油

順不同・敬称略

ぼぶらは北海道共同基金会の助成を受けて発行しています



赤い羽根共同募金

(10月1日～12月31日)

179名が街頭募金活動!!

今年も赤い羽根共同募金が10月1日からスタートしました。初日はあいにくの雨天にもかかわらず多くの市民が募金に協力してくださいました。この募金は約6割が地域福祉活動財源として地元に戻元されます。また、東日本大震災や台風12号などの災害等準備金として復興支援にも役立てられます。皆様のご協力をお願いします。

10月25日現在募金額 1,261,648円/目標額 4,000,000円



写真上 街頭募金出発式であいさつする谷口会長
写真下 雨の中街頭募金活動するボーイスカウトの皆さん

共同募金歳末たすけあい運動にご協力を!!

—美唄市共同募金委員会・美唄市社会福祉協議会—

12月1日から20日まで歳末たすけあい運動が始まります。目標額は1,400,000円でお寄せいただいた義援金は共同募金委員会が社協へ助成し、社協では明るい新年を迎えるための諸事業に活用します。今年もご協力をよろしくお願いいたします。

☆23年度歳末たすけあい事業

事業名	事業内容	対象	備考
1 図書文具購入支援(新規)		24年4月に小学校に入学する児童がいる世帯に2,500円相当の図書・文房具購入券を支給母子世帯、身体障害者手帳又は療育手帳を所持している児童がいる世帯	使用は市内文房具店限定
2 歳末家事援助		歳末時に居間などのすす払い、照明器具取替え等を行う世帯の中に高所の家事を行う家族がいない(1)要支援1、2及び要介護1、2の介護認定を受けている世帯(2)障害程度区分が1～6の認定を受けている世帯	グループホーム、ケアハウス入所者を除く
3 介護見舞金支給		介護保険利用者の負担軽減を図るため見舞金を支給	
4 おせち料理配食		12月31日におせち料理を配食する。	

- 1 上記対象者のうち、前年所得が右表の基準額を超えない世帯。
- 2 申請期間 12月1日から15日まで
- 3 申請方法等詳しくは、総務企画課へ 62-0770(米澤)

世帯人数	前年世帯収入
1人	80万円
2人	124万円
3人	164万円
4人以上	1人増えるごとに30万円増

ぼぷらは北海道共同募金会の助成を受けて発行しています

お知らせ

ろうあ者教養講座

日時: 12月3日(土) 13時～15時
場所: 総合福祉センターぼぷら
内容: 葬儀のお話し-いざという時のために-
対象: 重度の聴覚障がい者
参加費: 無料
申込: 11月18日(金)まで
(手話通訳を行います)
詳しくは 62-0770 総務企画課まで

赤い羽根ふわっと チャリティパーティ

日時: 11月25日(金) 18時～20時30分
会場: 総合福祉センターぼぷら研修室
パーティ券 2,000円(チャリティ含む)
飲み放題・料理も盛沢山
内容: バンド演奏・抽選会・アトラクションなど
☆パーティ券は社協事務局窓口にあります。

詳しくは 62-0770 地域福祉課まで

—ふれあいバザー同時開催—



社協介護保険事業からのお知らせ

- ・ふれあいデイサービス(地域密着型認知症通所介護(介護予防事業所)).....利用定員を2名増やしました
一昨年から利用が急増し、一時的に利用希望に添えないことがあったことからデイルームの拡張などを行い10月1日から利用定員を10名から12名へ増員しました。詳しいことは 63-3581へお問合せください。
- ・さわやかヘルパーステーション(障害者自立支援法による居宅介護事業所).....同行援護を開始しました
視力障がい者のうち、一定基準以上の方に対し移動時及び外出時に必要な支援を行うサービスを10月1日からはじめました。詳しいことは 63-0585へお問合せください。



あなたの善意を大切に.....ありがとうございました

ご芳名	金額	寄付理由等
中澤 準 様	100,000円	亡母が生前世話になったので
美唄市老人クラブ連合会女性部 様	15,000円	市民ふれあいまつりの売上げの一部を
美唄更生保護女性会 様	20,000円	市民ふれあいまつりの売上げの一部を



ぼぷら 第45号 2011(平成23)年11月1日発行

発行・印刷 社会福祉法人美唄市社会福祉協議会
〒072-0026 美唄市西3条南3丁目6-2 美唄市総合福祉センターぼぷら内
Tel 0126-62-0770 FAX 0126-62-6996
ホームページ <http://www.bibai.com/shakyo/>
Eメール shakyo@mail.bibai.com
☆広報紙「ぼぷら」や社協に関するご意見等をお寄せ下さい。

ぼぷらは北海道共同募金会の助成を受けて発行しています